

<p>絵画 I</p>	<p>報告課題第1回 解説</p>	<p>年 組 氏名</p>
-------------	-------------------	---------------

日本画を知ろう 解説

日本の伝統絵画を総称して「日本画」といいます。

日本画とは何なのか。特徴や、他の絵画との違い、素材などを知り、日本画の知識を深めよう。

●日本画の絵を見てみよう

▶江戸時代の日本画



円山応挙は江戸時代中期から後期にかけて、京都で活躍した絵師。写生を重視し多くの作品を残しています。

応挙は孔雀の絵をたくさん描いています。この絵では細く美しい描線で孔雀の羽が描かれています。

「牡丹孔雀図」  
円山応挙 1771  
相国寺（京都）  
重要文化財

one point

円山応挙の美しい描線、鈴木其一の見事な色面の構成。どちらも、絵画を構成する重要な要素だ。



鈴木其一は江戸時代後期の絵師。江戸琳派の酒井抱一が一番弟子です。この作品では、背景の全体に金箔が施され、その上に朝顔の花と葉が鮮やかに描かれています。色あざやかな色面で構成された画面は、装飾的で豪華さを感じさせます。

「朝顔図屏風 左隻」(六曲一双)

鈴木其一 江戸時代後期

メトロポリタン美術館（アメリカ）

▶現代の日本画



無常観や死生観をテーマに植物を描いている女性作家です。

伝統的な日本画画材に加えて、色鉛筆などを使用し、繊細な描線によって儚さが表現されています。

「ころころ」

笠井遥 2019

## ●風神雷神図屏風 宗達と光琳と抱一

報告課題では尾形光琳と、風神雷神図屏風について学んでいきます。ここでは、風神雷神図屏風についてさらに詳しく学んでみましょう。

下の3枚の風神雷神図屏風を見てみましょう。実はこの作品は、まず江戸時代初期に俵屋宗達という絵師によって描かれました。その後、約100年後の1711年頃に尾形光琳に模写され、そのまた100年後、1821年頃に酒井抱一によって模写されました。こうして琳派の斬新な構図や装飾的な独画技は100年単位の時間や場所、身分が遠く離れた人々によって受け継がれていきました。



### one point

俵屋宗達は、江戸時代前期に活躍した巨匠。琳派を生み出した人物と言われているよ!



「風神雷神図屏風」

俵屋宗達 1600年代  
建仁寺（京都）国宝

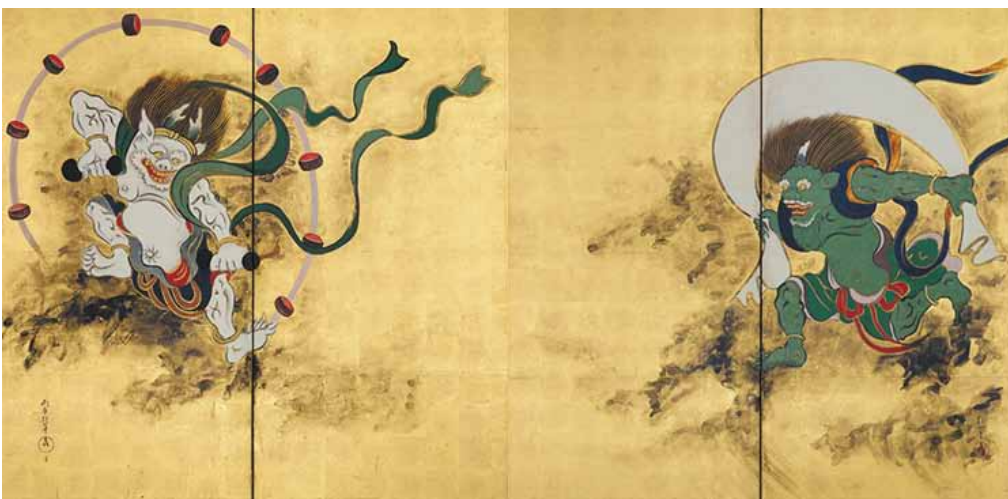


### one point

尾形光琳は、江戸時代に活躍した琳派を代表する人物だ。斬新な構図や装飾的で独自の様式を確立した人物!  
琳派を世に知らしめた人と言われているよ!

「風神雷神図屏風」

尾形光琳 1711年頃  
東京国立博物館（東京）  
重要文化財



### one point

実は、酒井抱一は宗達の風神雷神図屏風を見たことがなく、光琳のオリジナルの作品だと思って模写したと言われているよ。そう言われると、光琳の方に似ているような…。

「風神雷神図屏風」

酒井抱一 1821年頃  
出光美術館（東京）